「小教区では、私た ちは家にいるように 感じます」

家族が一緒に生活する上での柱 となるものは何ですか?

私たちはこのインタビューを楽しみにしていますが、自分たちが関かれたちが、自分たちと思っています。といいと思いたちは若いないと思いに、お互にあるではないが、おしたが、おいまが、ではいいが、ではいいが、必要な時にはお互いにある。 を講います。

私たち二人にとって、神を二人の関係の間に置くことはとても重要なことで、神と一緒ならすべてがうまくいきます。私たちは、神様の愛に応えて、天国という目標に向かって助け合っています。

毎日、ミサに行き、念祷とロザリオ を祈るようにしています。惨めさを 解放するために、しばしばゆるしの 秘跡に与ります。これらのことは、 私たちが神の子であることを実感 し、人生で生じる困難に立ち向かう ための恵みを受ける助けとなり、よ り一層人を愛する助けとなるので す。

ですから、私たちを支える柱は、神 への愛、夫婦の対話、ゆるし、秘跡 と思います。

現代社会における子どもたちの 教育で、何がもっとも難しいで すか?

現在、私たちの娘は2歳で、ありがたいことに、今のところ年齢なりの問題しかありません。しかし、娘の教育については非常に心配しており、それぞれの段階に対処するために養成を受けたいと思っています。

私たちは、感情、自分自身の基準、 そして即座に手に入る快楽に重くを 目分に生きるとして を知っていない。 を知っていながあります。 を知っていながあります。 を知っていながあります。 を知っていながまない。 が隠されているからでいるが見れるので、 ところに を表するとしたで、 がいなが見れることを でいるからです。 を表するからです。

このような状況において、子どもたちが、周囲の環境やソーシャルネットワーク、メディアで見つけた怪しげなインフルエンサーに引きずられることなく、人間として成長するのに役立つ確かな基準を選ぶ能力を持てるように、子どもたちの判断能力を培うことが最も難しことだと、私たちは考えています。

今日の家族は、キリスト教者であることを表明するためにどのような手段を持っているのでしょうか?

この証言は、私たちの身の回りで、 またWhatsAppなどのSNSにおける バーチャルな振る舞いにも現れま す。今日の家族はSNSの中に、キリ スト者として表明する大きな道具を 持っています。もちろん、カテキズ

子どもたちに信仰を伝えること は誰にとても難しいことです が、あなた方はどのようにして いますか?

間違いなく、信仰教育こそ私たちが 最も関心を寄せていることです。し かし、私たちが心に留めておかなけ ればならないのは、実りではなく、 私たちの模範によって種をます。 を心配すべきだということができることは、 たちができることはができることができることができるように出会うなるなるように とばができるにというにができるにというにができるにというできるようにというできるようにというできるとのできると衝突する相対とがによるとがまりです。 は楽観的です。

今のところ、2歳になる娘のビクトリアは、生後2週間からミサに連れて行っていて、家にあるイエスとマリアのご絵に接吻することを教えています。

あなたの小教区はどうですか、 そこでの活動について教えてく ださい。

現在私たちの小教区は聖ニコラスで すが、結婚式を挙げ娘の洗礼式を 行った「ラ・コンパニア」(サン・サルバドルとサント・ドミンゴ・デ・シロス教会)とは強いつながりがあります。なぜなら、私たちは共に<u>聖墳墓兄弟会</u>のメンバーだからです。

私たちは毎日、小教区でミサに参加 していますが、先ほど言ったよう に、ビクトリアはたいてい私たちに ついてきます。聖書を説明するとき に私たちの心を燃え上がらせてくれ るので、アントニオ・エバンス神父 様の説教を聴くのが大好きです。聖 ニコラスでの様々な活動には参加し ていませんが、アントニオ神父様の 愛情と親しみやすさ、そしてホセ・ マリアとビクトリアが所属する「セ ンテンシア(イエスの死刑判決)兄 弟会 | の良き友人たちのおかげで、 私たちはこの小教区を我が家と感じ ています。

継続的な霊的養成の一環として、私 たちはオプス・デイがそのセンタ で提供する養成コースに参加して、 を聖墳墓兄弟会とセンテンといる た聖墳墓兄弟会とれる がとなっていまっる は、オプスと、兄弟会で見られる で見られる で見られる は、キリスト者としての は、キリにしてくれます。

教区へのあなたの家族の貢献は どのようなものですか?

正直に言うと、現在、私たち家族の教区への貢献は非常に限られて神がる。私たちは今、娘とそして神がそうお望みならこれから生まれてくる子供たちを育てることに専念しててるより積極的な支援の機会をもながら、キリスト者の家族としまる時です。

(原文はコルドバ教区のウェブサイ トに掲載されています)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shokyoku-ieniiru/ (2025/12/12)